

I 元禄潜穴

1 元禄潜穴穴頭 げんろくせんけつあながしら

所在地：宮城県宮城郡松島町幡谷明神崎



▲元禄潜穴穴頭



▲元禄潜穴穴頭上流側の閘門跡

(注) 撮影（2010.5.9）した時期は田植えの最盛期に当たるため、その用水として活用される潜穴水路の水は、泥で濁っている。



▲元禄潜穴穴頭：標柱、解説板2基

解説板には次のように記載されている。※「元禄潜穴穴頭」標柱の右側の案内板



げんろくせんけつ
元禄潜穴

※原文のまま掲載

仙台藩は産米を確保するため、新田の開発の政策を勧め、その一つとして、志田・黒川・宮城の三郡にまたがる品井沼の水を直接松島湾に排水干拓を計画。藩士大越喜右衛門の指揮により、地下排水路の工事を元禄六（1693）年七月に起工。五年間かかり当時の技術により困難と犠牲を乗り越え、元禄十一年八月に完成した。沼の水を穴川で幡谷明神へ導き、途中十数本の縦穴を掘って土砂を運び上げ、高さ二・四メートル、高さ三・六メートル、長さ二・五キロメートルのトンネル二本を根廻猫追まで掘り、現在の高城川を広げて松島湾へそそぐ、全長七・四キロメートルに及ぶ大工事で、歴史的な遺跡である。

松島町教育委員会

(注) アンダーライン部が、すぐ右隣の後年度において設置された案内板と異なっている。

- ① 「元禄十一年八月」は潜穴工事の完成を指している一方、右の案内板では、藩の直轄が解かれた年の「元禄十五年六月」で表記している。この間の5年は排水開田の事業が続けられていた。
- ② 「大越喜右衛門」の読みが「きえもん」とされている。
- ③ 「高さ三. 六メートル」は、「幅三. 六メートル」の誤り。

<右側の解説板>



① 元禄潜穴一穴頭（現在地）一 ※原文のまま掲載（ルビは省略）

仙台藩第四代藩主綱村が品井沼のはんらんを無くしたいという人々の願いと、新田を開発したくさんの米を生産し藩のお金をしっかりとするため、元禄六（1693）年七月、おおこし きえもん大越喜右衛門に命じて、藩が直接管理する事業として工事が始まりました。数多くの苦労をかさね元禄十五（1702）年六月、藩が直接管理する事業は完成しました。その後も土砂がたまったり水が流れにくくなると、改修工事をおこなっていました。

元禄潜穴の工事は志田、黒川、宮城の三郡にまたがる品井沼の水を、高さ2.4メートル、幅3.6メートル、長さ2.5キロメートルのトンネル2本をはたやみょうじんざき幡谷明神崎からねまわり根廻山王前まで掘り、浦川（現在の高城川）から松島湾へそそぐ、全長7.4キロメートルにおよぶ大工事で江戸時代の歴史的な遺産であります。

設置者 元禄潜穴地区県営地域用水環境整備事業推進委員会
宮城県仙台地方振興事務所
松島町

【この看板は、平成十八年度地域産業振興事務所（体験観光支援事業）により設置されました。】

▼供養碑と山神碑



写真右端は、文化十一年（1815年）に建てられた山神碑。元禄潜穴工事の犠牲者、宝暦、天明、寛政、天保の餓死者の霊を鎮め、村の安泰と繁栄を願った。



▼念仏供養塔（中央手前）



文政十三年（1831年）と刻まれている。



▼供養碑之建立（供養碑の石柱右側）



※大越喜右衛門、おまんの悲話については、別稿をご覧ください。

供養碑之建立 ※原文掲載

元禄潜穴改修工事犠牲者の霊を祭る為に次の場所に供養碑を建立する

- 一 幡谷地獄沢墓地に眠る数百名の霊
元禄六年から元禄十一年の五ヶ年
- 二 幡谷大墓山墓地に眠る霊
伊達藩士總指揮者大越喜右エ門外六名
元禄十一年八月十五日
- 三 根廻影沢墓地に眠る人夫数百名の霊とおまんの霊
享保七年七月十七日
平成五年三月二十日建立 菅野利光